

神楽名

ふどこの 不土野神楽

伝承地

不土野地区

椎葉村大字不土野

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

不土野神楽保存会

代表 椎葉 邦博



山の神面

◆ 神楽の概要・由来・その他

不土野地区は椎葉村の西端、不土野川流域の山間地に位置している。山林が9割の椎葉村では希有の平坦な地形で、水稻農業に適し、早くから川沿いに水田の開発が進められた。米が収穫できる富裕の地であったため「富土野」と呼ばれたのが、現在の地名の由来である。くまひとよ 球磨人吉地方との交易の歴史は古く、明治41年に柳田國男やなぎたくにおが宿泊したことでも知られる旧庄屋那須源藏邸には、約50点の近世文書が保管されている。

不土野神社の創建は200年ほど前と云われ、地元では巣山神社の名で親しまれている。平成16年の大水害で不土野神社への通路が寸断されて以降、年祭りである夜神楽は不土野生活改善センターにて行われている。猪の豊獵を願う「猪取願の神楽」や、放牧場の安全を祈る「牧の願の神楽」など、集落の生活につながることを祈願する演目が多く伝承されている。「壱神楽(下)」「守の神楽(下)」「神糺」や面を着けて舞う演目は、正装である紋付き袴で舞われる。樂は八調子で、しこを踏むように舞うのが特徴的である。

◆ 芸能の機会・場所

- 不土野夜神楽... 12月第1土・日曜日 不土野生活改善センターにて奉納

◆ 演目一覧

エリメ

いたおこ
板起し

かみよび
神呼(祭式行事)

あんなが
安長・美講屋

いちかぐら
壱神楽 上

壱神楽 下

じがた
地固め

めんどの
面殿めしあげ

もん
守の神楽 上

まきがん
守の神楽 下

弓通し

しょうごん殿

よつたりだいじん
四人大神(宵)

ちんちかぐら
鎮地神楽

みくま

鬼神面

おきえ

さか
酒ばかい

稻荷神楽

ごつ天皇

戸取面

めしょう
女性面

たちから
太力面

かんしい
神糺

しばひき
柴引面

四人大神(朝)

山の神面

ししひりがん
猪取願の神楽

まきがん
牧の願の神楽

ふくたねま
福の種蒔き

火の神参り神楽

さい取り
取さし

神送り

※平成26年12月の神楽奉納の番付に基づく

❖ 演目の特徴

「稻荷神楽」と同時進行で行われる「酒ばかい」では、神職ほか4、5人が台所に行き、神々に御神酒と大根と焼き豆腐の串刺しを召し上がるよう申し上げる。串刺しはみやげとして持ち帰られ、参拝客たちが取り合いをする。椎葉神楽で「酒ばかい」を伝える地区は稀である。

不土野神楽では、終盤には「福の種蒔き」「火の神参り神楽」「さい取さし」と火の神様に捧げる演目が続く。各演目とも最後は台所に舞込み、木のコブ（葛まきの木）、紙で作った人形、火の神御幣、ケンサキ12本などを火の神様に納め、地区に火の厄災がないことを祈る。「さい取さし」は「臼の口開け」とも呼ばれ、ゴザでくるんだ豎杵やオゴケを持った祝子が一列になって、御神屋から火の神様の祀ってある台所に舞い込む。それを女性達が遮り、押し戻し、ユーモラスな問答がなされる。台所では杵で臼を3度つく真似をする。

❖ その他の特徴

- 面…鬼神、戸取、女性面、柴引き、太力面、山の神 等
- 楽…太鼓（平バチ）、鉦（銅拍子）、^{かね} 楽板「壱神楽」や面舞の神楽の始まりは楽板が打たれる（以前は笛も使用されたが、現在は伝承されていない）
- 装束…紋服、袴、麻の上衣、白の舞衣、黒裾文様着物、烏帽子、毛笠（猪毛）、シャグマ、宝冠（紙）、鉢巻き 等（動きの激しい演目では足袋を脱いで舞う）
- 採り物…御幣、面棒、扇、鈴（錫杖型）、弓、矢、刀、折敷、榊枝、麻緒、木のコブ（葛まきの木）、豎杵、オゴケ 等
- 文書…昭和50年に神楽の手順を記した「年祭神事諸控」が保管されている

❖ 伝承の現状・課題

近年は保育所の子供数が増加し小学校の改築が行われるなど、若年層の人口の増加がみられる地区である。保存会会員は20名で、子供や小学校の教員を合わせると25名になる。昔は世襲制で舞う演目が代々受け継がれていたが、現在は子供や小学校の教員たちも練習に加わり、基本の舞である「おきえ」「ごつ天皇」などに参加する。



ごつ天皇



戸取面



福の種蒔き